

洋
名
會

0375

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>

洋洋會規約

Handwritten signature and date stamp (18.8.24)

一、本會ハ主トシテ在京豫備役海軍將官中ノ有志ヲ以テ組織ス

一、本會ノ目的ハ相互ノ親交ヲ保ツト共ニ海軍ニ關スル諸問題ヲ研究シ以テ聊

カ報國ノ微衷ヲ效ツムトスルニ在リ

一、本會ニ幹事若干名ヲ置ク

一、本會々員ハ會費トシテ年額三圓ヲ收ムルモノトス

軍務局

趣意

現役ヲ離ルルニ自ラ日新ノ海軍ニ遠カルヲ免レス是ヲ以テ吾曹同志相謀リ隨

時會合ヲ催シ且現役者トノ關係ヲ密ニシ以テ本會ノ目的ヲ達成セムトス

大正十三年一月二十四日 改正

人事局

第三課長

局員

0376

南洋會第七回例會通知

開會日時 二月二十三日(土曜) 午後三時ヨリ

會場 野築地水交社(ハラク)

會費 金五十錢

参考 二月二十一日迄 市外幡谷才番地 中島次貞胡

田谷先 全面改正會規約并未入會者勸誘本

大正十一年 (遺白)

添申候(二月例會)於規約第四追加件決議
尚新規約(三月例會)費本月中三幹事迄
乞傳送付便(本月例會)日傳自交(ハラク)

0358

0377

大正十三年 月 日

殿

洋洋會幹事

0378

拜啓益々御清穆奉賀候、陳者別紙規約ノ通
吾曹有志相謀リ洋洋會ヲ組織致居候間御
賛同被下度得貴意候 敬具

尙ホ昨年六月以來左ノ通り實行中ニ有之候

一、毎月一回二十七日午後一時ヨリ例會ヲ催ホス

但シ當日公休日ニ當ルトキハ變更ス

二、例會々費ハ當日ノ出席者ヨリ其都度實費ヲ申受ク

三、大正十三年二月現在會員左ノ通り

○印ハ幹事(イロハ順)

- 伊藤乙次郎 麻布、櫻田町五〇(芝一八五三)
- 市川清次郎 赤坂、青山高層町二二〇
- 入澤敏雄 牛込、市谷仲町三(半込一八〇)
- 巖崎茂四郎 市外中野町一〇一九
- 石川秀三郎 市外大塚不入斗七七一
- 飯田久太郎 市外大井町北濱川二九二
- 岩野誠一郎 市外戸塚町諏訪一七四
- 伊藤安吉 市外北品川町二四二(高輪三三三)
- 土師勘四郎 芝、白金三丁目一〇三七
- 西澤 市外中野町一〇一九
- 本田親民 牛込、市谷仲町二六半込四三八五
- 東條明次 牛込、早稲田町三〇
- 外波辰三郎 市外池袋町柏木二二四
- 千阪智次郎 四谷、内藤町一〇四八
- 小笠原長生 市外代々木町幡ヶ谷九(四谷二五七)
- 大澤喜七郎 市外代々木町幡ヶ谷二九九
- 岡野富士松 赤坂、永田町六(芝九八)
- 岡村秀二郎 市外中野谷七八
- 小原 武横濱市青木町栗田ヶ谷二一三〇
- 太田原 遠本郷、駒込上宮土前町九六
- 大沼龍太郎 市外代々木町幡ヶ谷一〇九七
- 小山十萬洲 小石川、高田豊川町四七
- 加藤定吉 芝、高輪車町五(高輪一五八〇)
- 川島令次郎 芝、高輪北町四八(高輪八〇七)
- 笠屋六郎 麻布、本村町一七(芝六一六五)
- 川原製茶太郎 牛込、矢來町四ノ四三
- 勝水源次郎 市外中野谷不動園
- 風間篤次郎 小石川、原町一三五
- 金子文作 埼玉縣川口町榮町 山手車輔方
- 川上 満三 市外池袋九四二
- 吉田増次郎 赤坂、青山高層町二二五
- 吉田 孟子 麻布、梟町六
- 竹内 重利 赤坂、梟町三(芝六九六)
- 武田 秀雄 小石川、原町一四六(小石川六九〇)
- 種子田右八郎 麻布、山元町三七(芝五五五)
- 竹内 寛 市外池袋一五八
- 土屋 光金 市外西久保三九四(四谷五六三)
- 名和又八郎 芝、白金全里町一五〇(高輪八八四)
- 中島 資朋 市外代々木町幡ヶ谷一〇
- 中島與會八 市外平塚町越五六(高輪)
- 中島市太郎 市外中野八
- 中川 繁丑 市外上野台七四一
- 中川 平八 麻布、仲町六(芝六二二)
- 村上 銀吉 横濱市青木町幡ヶ谷三三九
- 野村房次郎 市外上大崎三九一(高輪三四二〇)
- 野崎小十郎 市外池袋町田園部市
- 追テ御賛否乍御手數御回答相煩度候
- 野口 興國 市外中野谷神山七六四
- 久保 來復 市外中野谷山九二二
- 隈川 基 芝、今入町一五和合俱樂部
- 山口九十郎 市外青山原宿一七〇ノ八
- 山路 一善 芝、白金三光町一九(芝二〇四二)
- 山岡 豊一 赤坂、青山高層町二ノ四
- 山口 統 市外代々木町幡ヶ谷二四四六
- 矢部辰三郎 市外千駄ヶ谷町幡田四(青山七三三)
- 山田 佐久 豊多摩郡杉並町幡三〇八
- 安村 介 一四谷、梟町二ノ二〇
- 柳澤 祐冬 市外中野町四三二五
- 松村 龍雄 芝、白金全里町九六(高輪一四九〇)
- 松村 直臣 市外中野谷五三三(芝四七七五)
- 町田駒次郎 市外中野谷七二(青山七九七)
- 舟越楫四郎 芝、白金三丁目一七(高輪一五三三)
- 福田 貞助 小石川、林町三
- 古川 弘 市外代々木町幡ヶ谷一五一一
- 福島熊太郎 市外中野谷四二七
- 藤江 逸志 市外中野谷新町六
- 江口 麟六 市外中野谷七二六
- 江越孝太郎 麻布、新橋町三ノ二七(芝三三八七)
- 有馬 良橋 市外中野谷大山七二四
- 浅岡 滿俊 市外代々木町幡ヶ谷二九二
- 有坂 銘藏 在野村町上野引澤字伊勢丸八四
- 安住 省一 市外中野谷五五一(青山一八四七)
- 佐藤鐵太郎 本郷、駒込町三三
- 佐藤 卓藏 市外中野町七六三
- 佐野 雄治 市外大塚百人町七五
- 櫻井 眞清 牛込、矢來町四ノ四半込一〇九〇
- 佐野 廉三郎 市外上野谷二四(青山一七八)
- 齋藤芳太郎 市外高田町若菜一九
- 木村 剛 市外入新井不入斗八三八
- 油谷 堅藏 市外西久保六六
- 宮川 邦基 麻布、本村町三〇(芝七七四)
- 水谷 叔彦 市外平塚町幡七二八
- 志 佐 勝 市外代々木町幡ヶ谷三九九
- 清水 宇助 市外西久保二二九
- 志津田定一郎 市外平塚町幡六四一
- 下平英太郎 牛込、矢來町三三(山五二)
- 島内 恒太 市外下池袋尾町八八
- 日高 謙爾 市外下池袋五八(芝七〇四七)
- 森山慶三郎 市外上野谷山一四三〇
- 關野 謙吉 麻布、本村町六六(芝四三九九)
- 末次幸次郎 市外中野谷八幡五六八

軍務局

大正十三年六月廿七日 洋會

一週年紀念大會中況

午後四時水文社ニ於テ開催出席者會員有馬大將以下六十三名外ニ齊後朝鮮總督財部海軍大臣山下軍令部長齊後軍令部班長内田水路部長島巢國軍令部班長小林軍務局長武村大學校長官等現役の者モ列席セラル。幹事ハ別我ノ報告ヲ為シ幹事ヲ改選ヲ行フ。ハ新任。ハ抽籤ニ依リ解任。

- 夷山慶三郎 篠重利 藤本源三郎
- 吉河為久彦 藤江逸志 太田原連

- 重村義一 大石正吉 飯田久太郎
- 吉田仙之助

◎中島資明 ◎塹口興國 ◎東海勇彦

右ノテ福田貞助又山路一善及ノ象護院立候補實驗談了次テ何時刻ヨリ卷取也。レタル齊後總督ハ着座當時並ニ現任檢テル朝鮮事情ニ就テ新甘分ノ感惠談了タル後前新ノ為メ退席セラル。

六時ヨリ前駐米大使飯表事依不利益男又ヲ加ヘ七十三名會食衣宴好サニ終ラシタル際有馬大將立テ會員ヲ代表シ東實ニ謝意ヲ表シ大要左ノ如ク挨拶ス本會ノ創立ニ軍務局ニ依リ海軍部由人心

0379-2

動搖興奮の時様ニ當リ而モ主トシテ軍統ニ
 依リ現役ヲ退キタル時官ノ業ヲ起ナリシカガ
 不平黨ノ集團ナルカ如キ再評ヲ受ケル姉ナ
 キニアザリシモ事實ハ終始一貫相立親交
 ナレト共ニ海軍ニ関スル諸問題ヲ研究シ以
 テ聊カ故國ノ微衷ヲ救フカントスルニテ自
 然ノ固執シ衰ク穩健者實ハ其後ニシタル
 經過ニ在テハ顧テ衷心欣快ニ感ハサル所ナ
 顧ニ本會退去一年留村ニ居テハ其具體的成
 果ヲ有セサルカ如キモ吾等存心極メテ意義
 アルトハ今ヤ會員ノ普ク是ヲ認スル所ナリ。
 吾人ハ益々目的ヲ貫徹シ努力ヲ苟モ懈ラズ盛
 衰係傍ニ関スル重大時様ニ際セシカ其時
 コソ吾人ハ全カヲ傾注シテ南局ヲ援助シ國
 家ニ貢獻スルノ務ナルヘシ。
 統テ傳分利養ヲ及ビ日米關係談アリ次
 テ同伴ノ関シ後同統出シ興味淡クシ
 モノアリシモ一時ヲ過ルモ以テ割愛シテ散
 ス。

大正十三年六月三十日 洋ノ會 直事

足拔

南陽市大退會 大塚長七郎次市外中野所
 安村ハ一尺小金井村中山谷天神傍ハ 武國感尺
 静岡市水落所一人ハ 何モ轉位ヤシクナリ
 了

印
形
句

0380

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>

洋洋會大會報告
大正十三年六月二十七日

0381

昔々現役ヲ離ル、ヤ自ラ日新ノ海軍ニ遠カラテ昨春在京豫備役海軍將官中ノ有志相謀
リ臨時會合ヲ催シテ相互ノ親交ヲ保ツト共ニ海軍ニ關スル諸問題ヲ研究セントスルノ議起
リ大正十二年五月十四日有志十六名始メテ水交社ニ會合シ意見交換ノ上幹事四名ヲ撰ヒ越
意書ノ起草ヲ托セリ同日二十一日十二名水交社ニ會合趣意書ヲ決定シ六月十一日水交社ニ發
起人會ヲ催シ十五名會合ノ上創立打合せヲ爲ス

今ヨリ一年前ナル昨年六月二十七日第一回水交社ニ開キ會員八十六名中五十七名參集シ
發起人總代トシテ有馬大將ノ挨拶、幹事森山中將ノ創立經過報告、幹事ノ囑託等アリ終テ
懇談ス

爾後毎月十日前後ニ於テ幹事會ヲ開キ次回會合ノ用務ヲ處理ス

第二回ハ七月二十七日水交社ニ於テ開會安保中將ノ歐米視察雜感ノ講話アリ尙現役將官ト
ノ親交ヲ厚スル本會趣意ニ基キ請ニ應シ財部海軍大臣中里軍需局長山梨人事局長鈴木醫
務局長ノ列席アリ有馬大將ハ本會ノ趣旨ヲ説明シテ當局者ノ了解ヲ求メ次テ大臣ノ挨拶ア
リ次テ懇談ニ移リ陸海軍文庫ヲ非現役士官ニ開放希望及陸海軍俱樂部建設促進談アリ來會
者五十四名

八月ハ酷暑ノ爲九月ハ震災ノ爲休會ス

第三回ハ水交社總失ノ爲西郷侯爵邸ヲ借用シ十月二十七日開會ス據澤海軍中佐ノ震災ニ於
ケル我海軍ノ損害並ニ行動ニ關スル講話アリ來會者三十五名

第四回ハ十一月二十七日大森俱樂部ニ於テ開會ス中里軍需局長ノ樺太視察談アリ來會者三
十五名

第五回ハ忘年会ヲ兼テ十二月二十日麻布龍士軒ニ於テ開會ス會員ノ意見交換ヲ主トシ討議
懇談ス議題ノ主ナルモノ左ノ如シ

海軍組織ノ客觀的調査批判ノ件
現役者子弟ノ教育監督事業ノ件
豫後備制度ノ改善ニ關スル件
廣瀬中佐銅像表敬ノ件
海軍兵器缺陷ノ件
増田高毅少將慰問ノ件

第六回ハ十三年一月二十四日日本俱樂部ニ於テ開會ス規約ノ改正ヲ行ヒ會員費トシテ年額
三圓徴出スルコト、セリ出席者三十四名ニシテ左ノ講話アリ

小林軍務局長。過ル一年間ニ變更セル海軍組織並ニ同期間ニ於ケル海上勤務實驗上ノ回
想談

山梨人事局長。士官補充基本率等ニ關スル人事行政談

食後華府會議ノ内幕談等アリ

第七回ハ二月二十三日水交社ニ於テ開會ス主トシテ左ノ件ヲ討議ス

非現役陸軍側ヨリ志願善導ヲ目的トスル聯合會(後ニ恢弘會ト名ク)設立ニ關スル交渉
主義ハ賛成ナレトモ洋洋會トシテ賛同スルノ時機ニアラス但會員個人トシテノ贊否ハ隨意
タルヘキコト、決定ス

第八回ハ三月二十七日鐵道協會ニ於テ開會ス東京警備司令部參謀長陸軍大佐ノ思想問題
ニ關スル講話アリ來會者四十一名終テ有志會食懇談ス

第九回ハ春色濃カナル際郊外ノ清遊ヲ兼テ國分寺驛江口定條氏別荘ニ於テ開會ス午食
後八角海軍大佐ノ歐米視察雜感談アリ終テ米國ニ於ケル戰爭紀念祭談。英國ニ於ケル凱旋
式談。衆議院議員候補談。大沼龍太郎少將慰問報告等懇談數時

五月ハ日本海々戰紀念ニ當ルヲ以テ休會

過ル一年間ニ於ル退會者ハ八名ニシテ矢部軍醫中將ハ今年三月二十九日卒去セラレタリ又
地方ニ轉出セラレタル會員ハ田中耕太郎中將秋山主計中將柴内造兵少將ノ三名ニシテ現在
會員百十四名ナリ即チ舊ニ送附セル名簿ニ山本造船中將及地方轉出會員前記三氏ヲ加記ア
ラシコトヲ乞フ

尙ホ會員ハ地方ニ轉出セララル、凡依然會員タルヲ但シ轉出中ハ會員費ヲ要セサルコトセリ

會員機關少將牧野豊助君ハ滿鐵ニ入り大連ニ移住サル

會計ハ別紙(暮ス)ノ如クニシテ現金七十七圓十八錢銀行預金百五十圓アリ尙會員費未清
三十名アリ

會員資格ニ關スル誤解ヲ解ク爲左ニ一言ヲ附記ス

會員ハ海軍將官タル以上在京タルト後備退役タルトヲ問ハサルノ趣意ナルハ本會規約ニ
於テ「主トシテ在京豫備役將官中ノ有志ヲ以テ組織ス」トアルヲ以テ明ナリ唯豫備役者
ハ有事ノ際直ニ現役者ノ後陣ヲ引受タルノ重責ヲ有シ比較的未タ深ク老境ニ入り居ラサ
ルヲ以テ之ヲ中心トシタルニ過キヌ本會ハ熱誠ナル會員ヨリ成ルヲ主眼トセルヲ以テ發
會時ノ勸誘ハ當時ノ在京豫備役將官ニ止メタリ後備退役將官中多數ノ體操熱誠ノ同志ア
ルヲ知レルモ一部ニ勸誘シ他ニ之ヲ爲ササルカ如キハ禮ヲ失スルコト、願念シ發起人カ
遠慮シタルニ外ナラス若シ夫レ將來本會ノ實質ヲ認メ贊同セルル方々アラハ歡テ之ヲ
迎ヘントノ本意ニ出テタルモノニシテ現ニ江口中將武田水谷兩機關中將松村直臣少將等
ノ入會ヲ歡迎シアル次第ナリ斯カル有志ノ入會ハ今後ニ於テモ大ニ歡迎スル所ニシテ現
ニ會員中ニハ既ニ後備ニ編入セラレタル者モ亦少カラサル實狀ナリ